

# 赤米ニュース

## 第299号

(2022年2月28日)



## 東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

おしらせ	-----	2388
おたより	-----	2390
『赤米ニュース』第221号～240号総目次	-----	2391
表紙解説：国分寺市の年中行事②—坂本稲荷社の初午祭—	-----	2394

# おしらせ

## ●大石岳人さんの赤米報告

国分寺市の赤米セミナーレでは昨年、3年目の赤米作りを無事に終了させておりますが、今までの活動を振り返り、代表の大石岳人さんが、このたび報告にまとめて下さいました。掲載誌は『国分寺にふるさとをつくる会』237号（特定非営利活動法人国分寺にふるさとを

### 今に生きる幻の赤米と国分寺の未来

赤米セミナーレ代表 大石 岳人  
(国分寺動物病院 院長)

国分寺で発見された「幻の赤米」をご存じでしょうか？24年前に恋ヶ窪の畑で発見され、正式には武蔵国分寺種といい、日本の4大赤米の一つとされ、大変貴重なお米です。私がこの赤米に出会ったのは、3年前「国分寺の未来をつくる3つの事業」というイベントでした。その一つが「古代赤米水田復活」で、街の仲間とともに赤米栽培を始めました。国分寺市内には既に水田はなく畑や公民館のバケツで栽培開始。春に種をまき、夏は汗だくで雑草を刈り、秋は倒伏防止で支柱を立て、麻ひもで縛る。8月のある朝、赤い穂が出て、開花しているのを見つけた時の感動は、今でも忘れることはできません。11月の新嘗祭で、熊野神社に自分たちが作った赤米を奉納し、神事に参加できた事も貴重な体験でした。現在、複数グループが、この貴重なお米を絶やさぬよう活動していますが、今後は小学生への教育面や、国分寺の街おこしに、赤米が未来のために役に立つ事を願っています。



ここに転載させていただきます。

## ●赤米セミナーレのしめ縄作り

国分寺市の赤米セミナーレではまた、昨年12月6日（月）に、2021年における最後の活動として、藁細工教室を開催しました（写真参照）。会場は、例によって恋ヶ窪公民館です。正月も近いので、会員たちが育てた赤米稲の稲藁を用いて皆でしめ縄を作り、それを輪にしてリースにし、松ぼっくり・松葉・笹の葉・梅花飾りなどを飾り付けます。松竹梅飾りの立派な正月リースができあがりしました。赤米セミナーレでは昨年も、恋ヶ窪公民館の中庭で赤米稲の共同バケツ栽培をおこないましたが、夏場の水不足が原因で、出来はいまひとつであったといいます。反省点を活かし、本年はぜひ大豊作を達成していただきたいものです。

## 公民館に集まり、みんなでしめ縄作りです



## ●赤米プロジェクトの第3回赤米祭

国分寺市の赤米プロジェクトでは例年、市内の本町南町八幡神社にて、当年の赤米の収穫を祝う赤米祭を開催していますが、2021

つくる会・2021年12月1日発行)です。執筆者のお許しを得ましたので、その全文をこ



本町南町八幡神社にて第3回赤米祭が盛大に開催されました。メンバーが久々に勢揃いしました（11月27日）



拝殿では新嘗祭の神事がおこなわれました

年は第3回ということとなり、11月27日（土）にそれがおこなわれました。約30名のメンバーが集まりましたが（写真参照）、まずは本町南町八幡神社の拝殿にて新嘗祭が執行さ

れ、この年に収穫された赤米玄米を神前に奉納して、収穫感謝のための神事が行われました（写真参照）。神事をつとめられたのは例年通り、渡邊憲史宮司です。その後は参集殿での直会となり、メンバーらが持ち寄った銘酒や御馳走が振る舞われ、にぎやかに歓談となりました。赤米プロジェクトはこの年も、国分寺市内外での大規模な赤米作りに取り組み、100kg以上もの収穫量を達成しています。2022年も、おおいに頑張ってもらいたいと思います。

---

## おたより

●来年も『赤米ニュース』を（坂 真矢子）

来年も引き続き『赤米ニュース』を送って下さい。宜しくお願いします（12/3：愛知県名古屋市）。

●赤米三種を希望（吉田雅之）

茨城県で農業をしております吉田雅之と申します。赤米、在来品種の稲に興味があり、情報を探しておりましたところ、インターネットにて貴会の『赤米ニュース』を見つけ、読ませていただきました。276号（2020年3月31日）に様々な稲の在来赤米品種が記されていて、現存していることに驚き、興味をそそられました。あわせて配布をなされていると書かれていましたので、ぜひ私も栽培してみたいなと思いました。もしよろしければ、「種子島種」・「武蔵国分寺種」・「長野トウコン」の種子を、お分けいただけませんか。何卒、よろしくお願い申し上げます（12/15：茨城県行方市）。

●来年もよろしく（大石岳人）

引越し大変お疲れ様でした。本年も種々の赤米活動にて、ご協力ありがとうございました。更新の手続きをお願いするとともに、来年もどうぞよろしく願いいたします。11月27日（土）には、本町南町八幡神社にて赤米祭、12月6日（月）には恋ヶ窪公民館にて、赤米セミナーでしめ縄を作りました（12/16：東京都国分寺市）。

●今年の収穫結果（高橋寿子）

今年の古代米の収穫結果を御報告致します。5月7日、かめとバケツに種粃8粒ずつまき、11月6日収穫致しました。収穫量は、かめ1698粒、バケツ1674粒。かめの方が土

の量が多いので、穂も立派でしたが、鳥に食べられたか粃の白いのがまじり、バケツの方は移動しやすく、従って日照時間が長く、同量の収穫結果となりました。すりばちで粃を取ったらどうなるか、楽しみです。来年もどうぞよろしく願い致します（12/17：東京都国分寺市）。

●種粃を受け取りました（吉田雅之）

この度は、急なお願いにも関わらず種子をおわけいただきました事、御礼申し上げます。ありがとうございます。さっそく来年の作付にむけ、畑・田の準備をしていくとともに、良い経過・結果報告ができる様、がんばってみたいと思います。『赤米ニュース』、心待ちにしております。わたくしの出身・地元が東京三鷹、小金井なので、同じ武蔵・多摩地方の記事、興味深かったです。今後ともよろしく願い申し上げます（12/19：茨城県行方市）。

●『赤米ニュース』を（安部浩子）

野沢様より御紹介いただきました。東京赤米研究会ニュースの拝読希望いたします。どうぞよろしくお願い致します（12/23：東京都国分寺市）。

●しめ縄をありがとう！（長沢利明）

国分寺市の池上修さん、正月用の見事なシメ縄を今年も作って下さいました。わざわざ私の引越し先までお届けいただき、本当にありがとうございます。ドアに飾ってありますが、すっかりお正月らしくなりました（12/25：東京都国立市）。

●赤米をありがとう（高橋寿子）

この度は貴重な赤米をお送り頂きまして、

有難うございました。友人が南方熊楠賞を受賞され、そのお祝いに赤米入りのごはんのおにぎりを召し上がって頂く計画をたてているのですが、新型コロナの影響で今だに実現できておりません。天武天皇の好物だった食物とだけ伝えているのですが、私の考えることは並大抵ではないだろうと、想像していることでしょう。今回頂いたのも使います。より赤い御飯が炊けることでしょう。来年もどうぞよろしく御指導下さい(12/22:東京都国分寺市)。

#### ●おめでとうございます(米村 創)

あけましておめでとうございます。昨年も大変お世話になりました。北陸は関東と異なる風習が多く、いろいろ考えさせられることがあります。また国立へもお伺いさせて下さい(1/1:富山県滑川市)。

#### ●今年もよろしく(富村隆子)

今年も御指導下さい増すようお願い申し上げます。『赤米ニュース』、引き続きお願い致します(1/1:東京都国分寺市)。

#### ●おめでとうございます(高橋寿子)

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく御指導下さい(1/1:東京都国分寺市)。

#### ●新年の御祝詞申し上げます(猪浦雅之)

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。平素のご厚情に深謝し、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いたします(1/1:東京都国分寺市)。

## 『赤米ニュース』第 221 号 ～240 号総目次

### 第 221 号 (2015 年 8 月 31 日)

8 月の赤米作り—————1766  
おしらせ( Deng 熱にご注意!、菅野郁雄さんの赤米地名研究、芋野郷赤米だより 20 号、播種後 50 日目 [6/13] の標準生育状況、播種後 60 日目 [6/23] の標準生育状況、播種後 70 日目 [7/3] の標準生育状況)—————1767

おたより(米村創: 武蔵国分寺種は絶好調、長沢利明: 小坂家の移植作業) ——1768  
種子島宝満神社資料集(23) ——長沢利明 1770  
表紙解説—————1772

### 第 222 号 (2015 年 9 月 30 日)

9 月の赤米作り—————1774  
おしらせ(国分寺種赤米稲の現地記者会見、菅野郁雄さんの赤米地名研究、播種後 80 日目 [7/13] の標準生育状況、播種後 90 日目 [7/23] の標準生育状況、播種後 100 日目 [8/2] の標準生育状況、播種後 110 日目 [8/12] の標準生育状況) ——1776

おたより(米村創: 国分寺の赤米、ついに開花!、米村創: マスコミ発表が決定!、長沢利明: 見事な稔りに感動!、米村創: 来年は赤米の展示を、長沢利明: 今年の自家の開花状況、高橋りょう子: 市議会で取り上げます) ——1777  
種子島宝満神社資料集(24) ——長沢利明 1779  
表紙解説—————1780

### 第 223 号 (2015 年 10 月 31 日)

10 月の赤米作り—————1782  
おしらせ(国分寺赤米稲の新聞報道、国分寺

市議会で赤米についての質問, 第5回現地見学会の報告, 前号の訂正, 播種後120日目 [8/22] の標準生育状況, 播種後130日目 [9/1] の標準生育状況) —————1784  
 おたより (長沢利明: 世界最大の田んぼアート, 米村創: 新聞記事に大きな反響, 長沢利明: 新聞報道、なかなか好評, 高橋りょう子: 市議会で頑張ります) —————1786  
 種子島宝満神社資料集 (25) —長沢利明 1788  
 表紙解説 —————1788  
**第224号 (2015年11月30日)**  
 おしらせ (会員登録の更新のお知らせ, 国分寺市の赤米の稲刈り) —————1790  
 おたより (長沢利明: お米のジャム, 山崎勇三: 藁細工の材料に, 米村創: 稲刈りも近いです, 来年は私も, 米村創: 稲刈りは11月に, 米村創: 稲刈りの実施日が決定, 米村創: 稲刈りの延期, 長沢利明: インディカ米の新品種, 坂真矢子: 『赤米の博物誌』, 米村創: 稲刈りの日時決定) —————1790  
 種子島宝満神社資料集 (26) —長沢利明 1793  
 表紙解説 —————1796  
**第225号 (2015年12月31日)**  
 おしらせ (再度会員登録の更新のお知らせ、法政大学の学生の皆さんへ、国分寺市の稲刈りを盛大に実施!, 小学生も参加して盛大な脱穀作業を実施!, 赤米の脱穀、新聞報道されました, 芋野郷赤米だより 21号) —————1798  
 おたより (長沢利明: 祝稲刈り大成功!, 高橋りょう子: 稲刈り楽しかったです, 須崎宏: 稲刈り、ご苦労様でした, 山崎勇三: 藁細工仲間が感激, 米村創: 来年は赤米展を, 山崎勇三: 藁をお待ちしております, 長沢利明: 学校給食に赤米を!) —————1801  
 種子島宝満神社資料集 (27) —長沢利明 1804

表紙解説 —————1804  
**第226号 (2016年1月31日)**  
 おしらせ (本年もよろしくお願い致します, 国分寺市農業委員会だより, 安本先生の赤米研究論文, 第6回現地見学会の報告, 国分寺市議会 2013年第2回定例会, 国分寺市議会 2015年度第2回定例会) —————1806  
 おたより (山崎勇三: 藁を届けて下さってありがとうございます, 多久島實: 来年もよろしく, 安本義正: 京丹後市の報告書, 米村創: 小坂長吉さんご病気に) —————1812  
 表紙解説 —————1812  
**第227号 (2016年2月29日)**  
 おしらせ (国分寺市議会 2015年度第3回定例会) —————1814  
 おたより (長沢利明: 天平メニュー・国分寺ごはん, 西トミ江: 本年もよろしく, 菅野郁雄: 原稿書いています, 坂真矢子: 本年も『赤米ニュース』を, 山田義高: 赤米7種類栽培中, 鈴木誠: 昨年頑張りました, 浜口景子: 本年は年女です) —————1815  
 種子島宝満神社資料集 (28) —長沢利明 1816  
 表紙解説 —————1820  
**第228号 (2016年3月31日)**  
 おしらせ (今年度用の種籾の配布, その他の珍しい稲の種籾を配布します) —————1822  
 おたより (鈴木誠: これで引退します, 長沢利明: 鈴木さん、今まで本当にありがとうございました, 米村創: 早稲田実業の生徒が赤米作り) —————1823  
 種子島宝満神社資料集 (29) —長沢利明 1825  
 表紙解説 —————1828  
**第229号 (2016年4月30日)**  
 4月の赤米作り —————1830  
 おしらせ (種籾の配布、まだ間に合います) —————1832

- おたより (多久島實:大阪の民具供養館, 米村創: 今年は赤米の展示を, 長沢利明: 国分寺野菜で新メニュー) —————1833  
 種子島宝満神社資料集 (30) —長沢利明 1835  
 表紙解説 —————1836  
**第 230 号 (2016 年 5 月 31 日)**  
 5 月の赤米作り —————1838  
 おしらせ (芋野郷赤米だより 22 号, 日本古代稲研究会 30 周年, 国分寺市の赤米作りを紹介, 播種後 10 日目 [5/11] の標準生育状況, 播種後 20 日目 [5/21] の標準生育状況, お寺で赤米栽培) —————1840  
 おたより (多久島實:『赤米ニュース』に感謝, 川口哲秀: 今年は赤米を作ります, 長沢利明: 今年も始まりました) —————1842  
 種子島宝満神社資料集 (31) —長沢利明 1843  
 表紙解説 —————1844  
**第 231 号 (2016 年 6 月 30 日)**  
 6 月の赤米作り —————1846  
 おしらせ (今年度の武蔵国分寺種の栽培計画, 『地名と風土』で赤米の新史料, 播種後 30 日目 [5/31] の標準生育状況) —————1847  
 おたより (須崎宏: 今年も赤米作りをやります, 川口哲秀: 20 cmに成長しました, 長沢利明: 小坂長吉さんと再会) —————1849  
 種子島宝満神社資料集 (32) —長沢利明 1850  
 表紙解説 —————1852  
**第 232 号 (2016 年 7 月 31 日)**  
 7 月の赤米作り —————1854  
 おしらせ (第 6 回現地見学会の報告, 播種後 40 日目 [6/10] の標準生育状況, 播種後 50 日目 [6/20] の標準生育状況) —1855  
 おたより (米村創: 国分寺市内の動き, 長沢利明: 赤米とゴーヤ, 米村創: 市経済課でも, 川口哲秀: 順調に分けつ) —————1858  
 種子島宝満神社資料集 (33) —長沢利明 1859  
 表紙解説 —————1860  
**第 233 号 (2016 年 8 月 31 日)**  
 8 月の赤米作り —————1862  
 おしらせ (「お寺の赤米」順調, 朝日新聞デジタル版で報道, 播種後 60 日目 [6/30] の標準生育状況, 播種後 70 日目 [7/10] の標準生育状況) —————1863  
 おたより (長沢利明: 今年の田んぼアート, 川口哲秀: ますます順調, 米村創: 秋の企画展に向けて) —————1865  
 種子島宝満神社資料集 (34) —長沢利明 1866  
 表紙解説 —————1868  
**第 234 号 (2016 年 9 月 30 日)**  
 9 月の赤米作り —————1870  
 おしらせ (国分寺市の赤米展、開催決定, 播種後 80 日目 [7/20] の標準生育状況, 播種後 90 日目 [7/30] の標準生育状況) —1872  
 おたより (米村創: 企画展の内容がかたまりました, 米村創: 赤米展の準備、進行中, 長沢利明: 今年是不調, 米村創: 台風の被害が少し) —————1875  
 表紙解説 —————1876  
**第 235 号 (2016 年 10 月 31 日)**  
 10 月の赤米作り —————1878  
 おしらせ (国分寺市の赤米講演会、開催決定, 播種後 100 日目 [8/9] の標準生育状況, 播種後 110 日目 [8/19] の標準生育状況, 京都で赤米講演会) —————1880  
 おたより (米村創: 赤米展で試食会を, 長沢利明: 国分寺の赤米、絶好調, 米村創: 市内のパケツ栽培も順調, 長沢利明: トウコン・ベニロマン開花, 米村創: 標本類の受け入れ完了, 川口哲秀: 穂が出ました, 小田富英: 『地名と風土』9 号の反響, 安本義正: 京都で赤米講演) —————1881  
 種子島宝満神社資料集 (35) —長沢利明 1884

表紙解説—————1884  
**第 236 号 (2016 年 11 月 30 日)**

おしらせ(国分寺市の赤米講演会、開催延期、  
 国分寺市企画展の内容決定、国分寺の赤米、  
 脱穀作業、『芋野郷赤米だより』23号、安  
 本先生の随筆集、会員登録の更新のお知ら  
 せ)—————1886

おたより(多久島實：赤米展の資料を、川口  
 哲秀：実がさっぱり、米村創：やっとポス  
 ターが完成、長沢利明：今年は不作) —1892

表紙解説—————1892  
**第 237 号 (2016 年 12 月 31 日)**

おしらせ(国分寺市の企画展、いよいよ開幕！、  
 「ぶんぶん・うおーく 2016」開催、「古代  
 米こくベジ・カレー」登場！、再度会員登録  
 の更新のお知らせ、法政大学の学生の皆  
 さんへ)—————1894

おたより(多久島實：明年もお願いします、  
 米村創：ようやくオープニング、榎本直  
 樹：赤米展、楽しみですですね、長沢利明：赤  
 米カレー、食べました)—————1900

表紙解説—————1900  
**第 238 号 (2017 年 1 月 31 日)**

おしらせ(本年もよろしく願い致します、  
 国分寺市の赤米展、成功裡に閉幕、『東京  
 新聞』でも報道)—————1902

おたより(多久島實：赤米展の資料に感謝、  
 坂真矢子：企画展おめでとうございます、  
 長沢利明：輸入米、安値で流通、長沢利明：  
 輸入米の調整金、米村創：赤米展開催中で  
 す)—————1904

種子島宝満神社資料集(36) —長沢利明 1907  
 表紙解説—————1908

**第 239 号 (2017 年 2 月 28 日)**

おしらせ(国分寺市の「天平メニュー」)—1910  
 おたより(米村創：赤米展、終わりました、

川口哲秀：今年は失敗、横山明子：今年は  
 不作、坂真矢子：本年もよろしく、藤村政  
 良：本年もよろしく、井田安雄：群馬県の  
 「色飯」、山田義高：栽培継続中、長沢利  
 明：米から作られた新しい飲物) —1910  
 種子島宝満神社資料集(37) —長沢利明 1916  
 表紙解説—————1916

**第 240 号 (2017 年 3 月 31 日)**

東京赤米研究会結成 20 周年記念報告:国分寺  
 の赤米の 20 年(I)—————1917

おしらせ(今年度用の種籾の配布、本会結成  
 20 周年)—————1922

おたより(米村創：学校給食に赤米登場！、  
 長沢利明：祝 20 周年!)—————1924

表紙解説—————1924

**[表紙解説] 国分寺市の年中行事②**

—坂本稻荷社の初午祭—

稲荷社の祭日といえば、2月初午日に決まっている。  
 かつての江戸の町に多かったものとして、「伊勢屋稻  
 荷に犬の糞」という言い方があり、江戸市中にはたく  
 さんの稲荷社が祀られていたので、初午日にはどこの  
 稲荷でも盛大な祭礼がおこなわれ、江戸中に祭り太鼓  
 が鳴り響いた。多摩地域でもそれは同じで、国分寺市  
 内でいえば、西恋ヶ窪の坂本稲荷社の初午祭がもつと  
 も盛況で、今でも毎年おこなわれている。現在では、  
 2月11日の建国記念日に挙行されているが、社前  
 には五色の紙旗がたくさん飾られて、実にはなやかだ。  
 神社の膝元の坂本家では農業作業場を開放して接待  
 場を設け、参拝者らに飲食を振る舞っている。坂本稻  
 荷は寛政5年(1793)に祀られた古社で、商売繁盛・  
 開運出世にご利益があるといい、各地に熱心な信徒が  
 いて、都心部から願掛けにやってくる人々も見られる。